

<タービンの振動評価試験>

概要

タービンの振動計測では、画像による計測などが行われているが、ここでは、歪ゲージをセンサとして振動計測を行う例を示します。高温対応の歪ゲージをブレードに貼付し、スリップリング等で伝達する方法です。

一方、制御部からの制御信号等のデジタル信号も同時に測定する必要があります。digitizerNETBOXを用いて、8チャンネルのアナログ入力と、最大11チャンネルのデジタル入力の同時多点測定が可能です。

- ・ 振動：歪ゲージからスリップリングを介してシグナルコンディショナで電圧値に変換
- ・ 回転パルス：デジタル信号
- ・ 制御信号：デジタル信号

主な仕様・特長

digitizerNETBOX DN2.591-08 -Dig

アナログ入力

： 8チャンネル, 16ビット, 2.5 MHz, 5 MS/s,
1 x 512 Msamples

デジタル入力： 11チャンネル

SBench6

プログラムなしで、測定条件の設定、測定データの表示、格納他を行うことが出来るツール

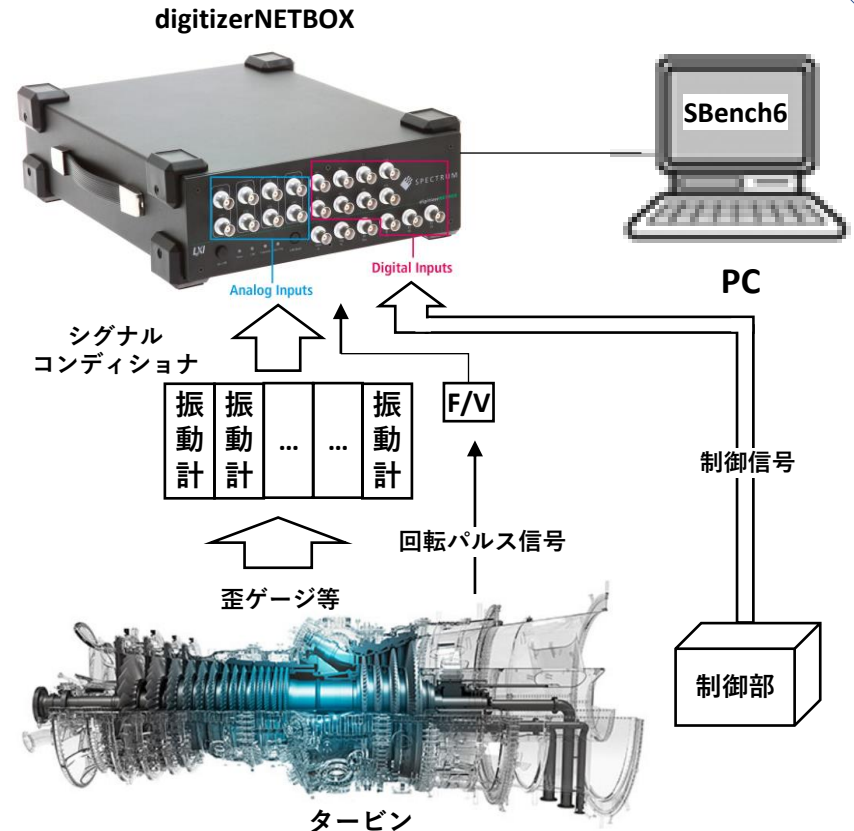


図1. タービンの振動評価装置

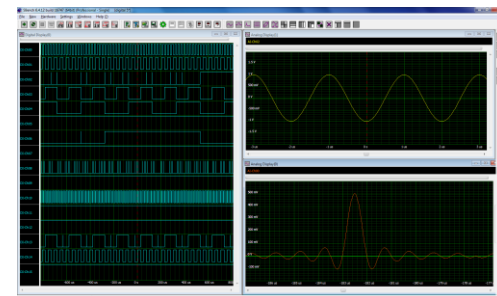


図2. SBench6によるアナログ・デジタル信号同期測定例